

資料の情報から社会的事象の特色や意味を深く捉え表現させる授業づくり

—社会的な見方・考え方を働かせる問いや資料活用方法の工夫を通して—

塩竈市立玉川中学校 齋藤 直義

1 研究主題について

(1) 社会科の課題や重点から

現行の学習指導要領の実施に当たり、中央教育審議会答申では、「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分である」と社会科の課題を指摘している。また、宮城県教育委員会の「学校教育の方針と重点」（2024年）では、社会科の重点を「諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図る」と示している。このことから、「資料を読み取る力の育成」「多面的・多角的に考察し表現する力の育成」を図る指導が求められていることが分かる。

(2) 社会科学習の特性から

社会科学習の特性として、資料からの確に情報を読み取る力は必要不可欠であると考えられる。社会科の教科書の構成は、ある社会的事象を本文で説明している以外に、写真やイラスト、統計、地図、年表などの資料で根拠が示されており、教科書見開き1ページあたりの大半を資料が占めている。第2学年で学習する地理、歴史の教科書に掲載されている資料数と種類を調べたところ、図1のとおり資料の大半を写真やイラスト、統計や地図が占めていた。

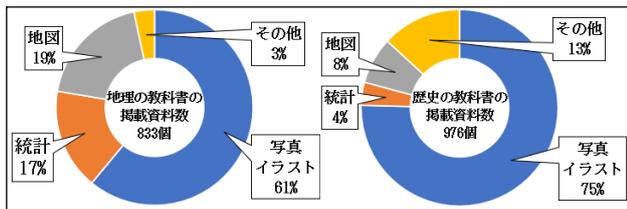


図1 教科書に掲載されている資料数と種類の内訳（令和5年度東京書籍）

このことから、社会科学習で学びを深めるために、写真やイラスト、統計や地図などの諸資料からの確に情報を読み取る力は必要不可欠であると言える。

(3) 生徒の実態から

資料の読み取りに関するレディネステストを実施した。結果は表1のとおりである。

表題、年代、出典などの資料としての要件や、グラフの種類と特徴については多くの生徒が把握できていることが分かった。また、単純な数値や変化も読み取れていることが分かった。しかし、グラフを

比較して読み取る問題や、写真を比較して読み取る問題は解答率が低いものが多く、約4割の生徒が無解答だった。

表1 資料の読み取りに関するレディネステストの結果（令和6年5月15日実施：n=34）

問題番号	問題内容	正答率
1	資料の要件、グラフの種類と特徴を確認する問題	正答率
(1)	何についての資料か確認するには「表題」を見る。	97% (33/34)
(2)	何年の資料か確認するには「年代」を見る。	91% (31/34)
(3)	もとの資料を確認するには「出典」を見る。	82% (28/34)
(4)	折れ線グラフ、棒グラフは「変化」を表す。	85% (29/34)
(5)	円グラフ、帯グラフは「割合」を表す。	88% (30/34)
2	グラフを読み取る問題「主な国のエネルギー消費」	正答率・回答率
(1)	2016年にエネルギー消費量が10億トンを超える国。 【正答】アメリカ・中国	91% (31/34)
(2)	2016年までにエネルギー消費量が減った国。 【正答】ロシア	91% (31/34)
(3)	日本と他国を比べて読み取れること。※複数解答 【解答】他国と比べ少ない。 【解答】日本は変化が少ない。 【無解答】	50% (17/34) 53% (18/34) 38% (13/34)
3	写真資料を読み取る問題	正答率・回答率
(1)	AからCの写真を比べて読み取れること。※複数解答 (A：冷帯地域、B：熱帯地域、C：乾燥帯地域) 【解答】家の材料や周囲の植物に着目して解答。 【解答】家の造りに着目して解答。 【無解答】	47% (16/34) 32% (11/34) 44% (15/34)

※2の出典：「世界国勢図会」2019/20年度版。3の出典：教科書。資料は省略。

以上の社会科の課題や重点、特性、生徒の実態から、本研究は、「資料の情報を比較したり関連付けたりしたことを多面的・多角的に考察する力」を「深く捉える力」と定義した。また、「表現する力」を「思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力」と定義し、本研究では「資料の情報から社会的事象の特色や意味を深く捉え表現する力」を高めることを目的とするものとした。

2 研究の検証方法

社会的事象の特色や意味を深く捉え表現する力を高めるためには、社会的な見方・考え方を働かせることが重要であると考えられる。そこで、「社会的な見方・考え方を働かせる問いの工夫」「社会的な見方・考え方を働かせる資料活用方法の工夫」の2点について授業改善に取り組み、社会的事象の特色や意味を深く捉え表現する力の高まりが見られるか検証を行う。

(1) 研究の手立て

① 社会的な見方・考え方を働かせる問い（学習課題や発問）の工夫

社会的事象の特色や意味を深く捉え表現する力を高めるためには、問い（学習課題や発問）が重要である。学習指導要領には社会的事象の地理的な見方（視点）の例として「位置や分布に関わる視点」「場

所に関わる視点」「人間と自然の相互依存関係に関わる視点」「空間的相互依存作用に関わる視点」「地域に関わる視点」が挙げられている。それらの見方と「地理的事象がなぜそこでそのように見られるのか」「なぜそのように分布したり移り変わったりするのか」「私たちは地域の将来をどのように考え行動すべきか」といった考え方（方法）を働かせるような問いが重要である。そこで、以下の工夫を行う。

ア 学習課題の工夫

複数の資料を基に、社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的な考察をねらいとした学習課題を設定する。また、複数の資料を関連付けながら、社会的事象の特色や意味を考えて説明・表現する活動をねらいとした学習課題を設定する。

イ 発問の工夫

「社会的事象の因果関係を問う」「ある社会的事象の事例から一般化を図る」「複数の側面から考える多面化・視点と視野を変えて考える多角化を促す」発問を行う。また、生徒同士の思考をつなげたり、対話を促したりする「問い返し」、考察した理由を掘り下げる「切り返し」、否定的に働き掛けて自分の考えに確信を持たせたり新たな視点に気付かせたりする「ゆさぶり」といった補助発問によって生徒の考えを深める。

② 社会的な見方・考え方を働かせる資料活用方法の工夫

社会的事象の特色や意味を深く捉え表現するためには、資料の情報を基に、社会的な見方・考え方を働かせることが必要であると考え。そこで、以下の工夫を行う。

ア 資料内容の工夫

学習の動機付けとして、「知りたい」「調べてみたい」という意欲を喚起するような資料を提示する。また、社会的な見方・考え方を働かせて、考えを説明したり、議論したりする学習の展開をねらいとした資料を提示する。

イ 資料の提示方法の工夫

I C Tを活用し、文字のみではなくグラフや図、写真や動画資料など、学習の目的に合わせた多様な資料を提示する。複数の資料を比較させたり関連付けたりさせる場合も、操作の容易性や即時性を生かして、I C Tを活用した資料の提示を行う。

3 授業実践 I

【単元名 日本の地域的特色と地域区分】

（東京書籍 新しい社会地理）

(1) 研究の手立て

① 社会的な見方・考え方を働かせる問い（学習課題や発問）の工夫

単元を貫く学習課題を以下のとおり設定した。

日本にはどのような地域的特色があるのか、自然環境、人口、資源・エネルギー、交通・通信の視点から考えよう。また、持続可能な社会づくりのための地域の課題と解決策について考えよう。

地域的特色の理解にとどまらせることなく、持続可能な社会づくりに関連させて未来像を問う学習課題を設定した。

各授業においても以下のとおり学習課題を設定した（表2）。

表2 日本の地域的特色と地域区分の学習課題

時	学習課題
1	日本の自然災害は地形とどのように関係しているのだろうか。
2	同じ日本なのに、なぜ気候が違うのだろうか。
3	防災と減災に必要なことは何だろうか。
4（本時）	「人口減少」の日本の未来はどうなるのだろうか。
5	資源・エネルギーから見た日本の特色は何だろうか。
6	日本の産業は地域や年代でどのように変化してきただろうか。
7	交通網の発達、日本人々を便利にしたのだろうか。
8・9	テーマを決めて地域区分を作成し、持続可能な社会づくりのための地域の課題と解決策について考えよう。

授業実践 I では、「『人口減少』の日本の未来はどうなるのだろうか」という学習課題を設定した。生産年齢人口の減少や少子化など、人口減少においてマイナス面が多く考えられる中、人口減少による環境負荷の低減といった、社会的事象の両面性を考えられる学習課題を設定した。

② 社会的な見方・考え方を働かせる資料活用方法の工夫

人口減少の日本の未来について、マイナス面だけでなくプラス面にも気付かせられるような複数の資料を用意した。外国人人口の推移、住宅数及び増加率の推移、エネルギー消費量の推移、ごみ排出量の推移など、資料の読み取りを通して多面的・多角的に捉えられるようにした。このような工夫により、地理的な見方の1つである「人間と自然の相互依存関係に関わる視点」を働かせられると考えた。

また、宮城県内で唯一「自立持続可能性自治体」である大衡村や、過疎地域でも利便性の高い生活が実現可能な「Society5.0」についてのニュース映像を取り上げた。「場所に注目する」見方や「地域の将来をどう考えるか」といった考え方を働かせるようにした。

(2) 生徒の取組について

人口減少の日本の未来について、授業後のアンケートに以下の記述が見られた。

- ・人口減少はメリットもあるが、デメリットがそれ以上に大きいと思い、やはり何とか食い止めなければいけない問題だと感じた。
- ・毎年人口が減ってきているが、最終的には日本はAIがたくさん使われるようになり、今の生活よりもすごく便利になると考えました。

学習を通して、人口減少を自分のこととして受け止めていることが分かる。生産年齢人口の減少や消滅可能性自治体について学習した上で、学習課題について、マイナス面とプラス面との両面から考えて記述している。

(3) 成果と課題（○：成果、●：課題）

- 多くの生徒が持つ価値判断と逆の考えを示した上で、思考を揺さぶるような発問を準備した。その結果、人口減少の未来について、マイナス面だけでなくプラス面を考えた記述が40%見られた。
- 「消滅可能性自治体」のニュースや、未来社会の姿である「Society5.0」の動画を資料として活用したことで、学習課題をより身近に捉えて、地域の将来について考える記述が見られた。
- 興味・関心の高い生徒や、資料の読み取りや考察を得意とする一部の生徒の発言で授業が展開する場面が多く、多くの生徒に興味・関心を持たせながら学習課題に取り組みせられる資料活用方法の工夫がより必要である。
- 「人口減少」の日本の未来について考えたことを記述する課題で、無解答が20%見られた。支援を必要とする生徒に対して、考察する視点やまとめ方の例示が十分ではなかった。

4 授業実践Ⅱ

【単元名 日本の諸地域 中部地方】
（東京書籍 新しい社会地理）

(1) 研究の手立て

① 社会的な見方・考え方を働かせる問い（学習課題や発問）の工夫

日本の7地方の中でも、中部地方は工業生産額が最も高く、農業生産額も高い地方である。その背景には、地形や気候が異なる東海、中央高地、北陸という3つの地域で成り立ち、各地域に個性豊かな産業が発展していることが挙げられる。

中部地方の学習は、各地域の自然環境や産業の特色などを網羅的・並列的に取り上げると、知識の習得に偏ってしまう可能性が高い内容である。

そこで、単元を貫く学習課題を以下のとおり設定した。

なぜ生産額1位の県が中部地方に集中しているのか。

地域特有の産業が発展している条件を考察し、表現させながら、中部地方の特色を理解させたいと考えた。

各授業においても以下のとおり学習課題を設定した（表3）。

表3 中部地方の学習課題

時	学習課題
1	中部地方に生産額1位の県が集中しているのはなぜか予想しよう。
2	北陸で、ものづくりが盛んな理由は何だろうか。
3	果樹栽培や高原野菜の栽培は、なぜ中央高地で盛んなのか。
4(本時)	東海では、なぜピアノやプラモデル生産が盛んになったのだろうか。
5・6	なぜ生産額1位の県が中部地方に集中しているのか。自然環境、歴史、場所のつながりの視点から自分の考えをまとめよう。

第1時では、中部地方に生産額1位の県が集中しているのはなぜか予想させることで、学習に対する見通しを持たせた。また、中部地方の自然環境につ

いて概観させ、東海、中央高地、北陸という、地形や気候が異なる3つの地域で成り立つという知識を習得する時間として設定した。

第2時から、東海、中央高地、北陸の地域ごとに課題を設定し、各地域ごとに特色ある産業が形成される条件を、資料を基に考察し、表現する学習とした。産業が形成される主な条件には、自然環境、歴史、場所のつながりが関係し、このような条件が相互に作用して、地域特有の産業が発展しているところに留意していくようにした。例えば、北陸の産業を扱う時間では、自然環境（冬の豪雪）と歴史（江戸時代から続く伝統産業）の視点から、北陸の産業が形成される理由を考察して記述するようにした。

生徒の実態として、資料から情報を読み取ることにはできるが、複数の情報を関連付けながら考察し説明することを苦手とする生徒が半数以上いる。そこで、単元を通して、複数の情報を関連付け、中部地方の特色を考察し表現する学習課題を設定した。

授業実践Ⅱでは、「東海では、なぜピアノやプラモデル生産が盛んになったのだろうか」という学習課題を設定した。静岡県でピアノやプラモデル生産が盛んになった理由として、豊富な木材や伝統的な職人の技術を生かしてきたという経緯があることから、自然や地域に関わる視点で社会的な見方を働かせ、分析・考察できる内容として、静岡県のピアノやプラモデルの生産を取り上げた。分析・考察したことは、支援が必要な生徒もまとめやすいように、シンキングツール（ベン図）を活用して表現させた。

② 社会的な見方・考え方を働かせる資料活用方法の工夫

静岡県では、ピアノ生産のシェアが100%、プラモデル生産のシェアが約90%である。静岡市の街頭には郵便ポストや公衆電話がプラモデル型オブジェとして設置されている。生産シェアの統計データ、やプラモデル型オブジェの写真や実物資料を資料として提示することで、生徒に疑問や興味を持たせ、「知りたい」「調べてみたい」という意欲を喚起できると考えた。

生産が盛んになった理由を調べさせるため、静岡県のニュース映像や教育動画の動画を資料として提示した。盛んになった理由を多面的・多角的に示している資料であり、社会的な見方・考え方を働かせられると考えた。動画は、短時間で主要な部分を視聴できるように、ICTを活用して編集したものを提示した。資料はオンライン授業支援ソフトで配布し、個人のペースで視聴できるように工夫した。

(2) 生徒の取組について

産業が形成される主な条件として、自然環境、歴史、場所のつながりの3つの視点を与えながら、中部地方の特色について学習させてきた。

本時で、調べたことや考えたことをまとめさせたシンキングツール（ベン図）には、以下のような記

述が見られた。

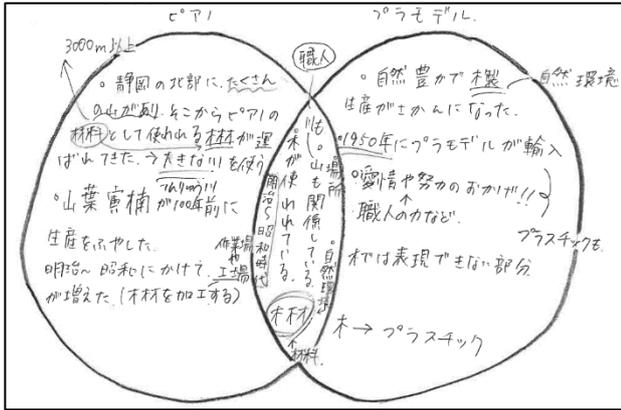


図3 生徒が記述したワークシートの一部

中央高地の豊富な木材を活用して木工製品の生産が盛んになった（自然環境）、天竜川の水運を利用して木材を運んだ（場所のつながり）、伝統的な職人の技術が生かされてきた（歴史）、などが記述されている。東海では、なぜピアノやプラモデル生産が盛んになったのだろうかという学習課題に対して、3つの視点を基に、調べたことや考察したことをまとめることができている。

(3) 成果と課題 (○：成果、●：課題)

- ピアノやプラモデルの生産シェアの統計資料や、プラモデル型郵便ポストの写真資料を提示したところ、90%の生徒が学習課題に対して興味・関心を示した。
- 支援が必要な生徒も、自然環境、歴史、場所のつながりの視点をを用いて共通点を考察したり、シンキングツールを活用して調べたことをまとめたりすることができた。
- 徳川家康が城を作らせるために、職人を静岡県に集めたことがきっかけだったのではないかと判断できた生徒の記述が見られた。
- 社会的な見方・考え方を働かせられるように、「何を」といった知識を問うのではなく、「なぜ」「どうするか」「どうすべきか」といったような、思考や価値付けを促す問いを重視していく授業改善が必要である。
- 学習課題の解決に必要な資料を全て提示したために、生徒が主体的に選択・判断しながら資料を収集する場面が不十分であった。

5 おわりに

(1) 結果と考察

① 社会的な見方・考え方を働かせる問い（学習課題や発問）の工夫

社会的な見方・考え方を働かせられるような、単元を貫く学習課題と各時間の主発問を設定した。その結果、次のような授業改善を図る効果があった。生徒にとっては単元の学習で何ができるようになれば良いのか明確になり、教師にとっては各時間の授

業を関連付けて、一貫性のある計画的な指導をすることができた。

授業実践Ⅱでは、「なぜ生産額1位の県が中部地方に集中しているのか。自然環境、歴史、場所のつながりの視点から自分の考えをまとめよう」という単元を貫く学習課題を設定した。半数の生徒が、3つの視点をを用いて、多面的・多角的に課題に対するまとめを書くことができた。

② 社会的な見方・考え方を働かせる資料活用方法の工夫

授業実践Ⅰでは、人口減少の両面性を考えさせる資料を提示した。また、授業実践Ⅱでは、産業が盛んという3つの視点を基に考えさせる資料を提示した。その結果、生徒の関心を高めながら、学習課題に取り組みせることができた。また、各時間の学習課題に対する無解答は2～3人程度で、多くの生徒が資料を基にして、自分なりの考えを説明したり、記述したりすることができた。

(2) 今後の課題

(1)を受けて、以下の2点を今後の課題としたい。

- ①生徒の思考を促すためには、「なぜ」という問いが重要である。「何を」「どのようにして」といった、知識を羅列的に扱う問いに偏らないように、「なぜ」「どうするか」「どうすべきか」といったような、思考や価値付けを促す問いを重視した授業改善を引き続き行っていく。
- ②学習課題に対して、無解答の生徒がいることが課題である。どのような生徒も主体的に選択・判断しながら資料を収集し、考察したことを表現できる学習課題の工夫を、引き続き検討する必要がある。

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省 (2017) 「中学校学習指導要領 (平成 29 年告知) 社会編」
- 2) 宮城県教育委員会 (2024) 「令和 6 年度学校教育の方針と重点」

【図表等の許諾について】

表1は実践前後に実施したアンケート調査、図3は生徒が記述したワークシートの一部である。氏名を伏せ、研究の目的にのみ使用することとし、所属校の校長から使用許諾を得た。